毎日新聞　第三種郵便物認可

明治大の人材育成プログラム受講生ら

環境問題と飯伊の魅力アピール

NPO法人設立へ

明治大（東京）が地域ブランド確立に向けて飯田市で開いた人材育成プログラムの受講生らが10日、飯田下伊那地方の自然や文化を生かしたイベントを企画するNPO法人「F．O．P」を設立すると発表した。イベントを通じて若者らに環境保護の重要性などを分かりやすく訴えることで、持続可能な社会の実現を目指す。13日には、同市のJR川路駅近くの天竜川の河川敷で設立総会を開く。

三月まで続いた同プログラムの最終回で、受講生五人が飯伊地方の魅力と環境問題をアピールする一万人規模のイベントの企画と、イベント開催に向けたNPOの設立計画を発表した。これをきっかけに飯伊地方の約四十人が集まった。NPO法人の理事として、同プログラムで指導に当たった明大商学部の大友純教授らも参加する予定という。

この日、市内で記者会見した代表の杉浦歩実さん(32)＝飯田市山本＝は「環境とか地域づくりとか、特に若者には堅苦しく感じる部分がある。『楽しさ』をきっかけに伝えて輪を広げ、ここから世界へと発信したい」と話した。

F．O．Pは「feelings of power」の略で、心の通い合いの大切さを意味するという。明大生を招いて飯伊の自然を巡るツアーや、夏祭り「飯田りんごん」でのPR活動などを計画している。当面の最大イベントとしては飯田市川路で来年四月、コンサートを中心として農業体験なども組み合わせたフェスティバルを開催する。環境問題もアピールする予定で、一万人規模の動員を目指している。

引き続き会員を募集している。問い合わせは杉浦さん(☎090・8023・5302)へ。

NPO法人「F．O．P」の設立を発表する有志代表の杉浦さん

1万人イベント企画「若者に訴えたい」

新しい観光旅行探る

県や5大学・短大　信大農学部で意見交換

県観光部と信大農学部（南箕輪村）は十日、県の観光振興についての意見交換会を同学部で開いた＝写真。学官連携を深めて観光振興を図る狙いで、長野市で二月に開いたのに続き二回目。今回は、農伊那市、環境省の担当者が出席した。自然体験や健康づくりなどを盛り込んだ新しい旅行の可能性について意見を出し合った。

信大農学部の中堀謙二講師は、学生が森林を調査し、企

ハンセン病差別語る

岡谷で回復者・作家の伊波さん　諏訪・上伊那の教員らに

諏訪、上伊那地方の教員らに自らの体験を話す伊波さん

発病して沖縄県の療養所に収容された伊波さんは、高校進学の機会を求め、家族の助けで療養所から「脱走」。その後、都内で講演活動などを続けた。結婚して二児の父親となったものの、子どもが保育園への入園を拒否されるなど家族もつらい体験をした。

らい予防法は一九九六年に廃止された。問題を考える糸口として、上田市の中学生による群馬県内の療養所への訪問活動を紹介した。ハンセン病の正しい知識を伝えるために、「子どもと一緒に学ぶ教員が必要」と訴えた。

県伊那教育事務所の主催で、社会人権教育研修会の一環。諏訪、上伊

議員報酬増「説明足りぬ」

阿智村会懇談会で住民指摘

阿智村議会は九日夜、議会のあり方についての住民懇談会で説明したというが、住民の一人は「議決前の懇談会で説明したというが、

だいたと考えて
た。
また「生活
もいる中で、な
めたのか」との
議会側は「議会

要望活動
上伊那地
リニア中央
設促進上伊那地
（会長・小坂樫
リニア「B
伝えたい」と話
総合学習の時間
ずれが大きい。
人と無関心な人
女性教諭(23)は
が参加した。茅

元信大学長・森本さんの自然教室

萱野高原で採集・観察

森本尚武・元信大学長が主宰する「森本自然教室」は二十日と二十七日、箕輪町萱野高原で植物や昆虫の観察・採集会を開く。自然豊かな同高原を会場にした初の企画。同教室は六月から連続して開いているものの、同高原での二日間だけの参加も可能。広く参加を呼びかけている。

二十日は樹木を観察する。植物学農学部の荒瀬輝同高原にある
を管理している
の伯耆原（ほうきばら）尊さ
る。

昆虫の観察や
十七日は、昆虫
学部の中村寛志